

# 2021年は自転車旅行年、来年こそ台湾へ!

台湾観光局は2021年を「自転車旅行年」と定め、台湾のサイクリングの魅力を世界に発信していく。プロモーションの一環で、台湾交通部の林佳龍部長(大臣に相当)がトップバッターとなり、鉄道局、観光局、台湾鉄道管理局の幹部らが11月28日から12月4日にかけてリレー形式で台湾を一周。「自転車旅行年」を国内外に強くアピールした。台湾は今後4年間で予算を投じ、自転車専用道路の整備や自転車ツアーの企画などを行い、アフターコロナを見据えた体験型観光として自転車旅行の魅力を広くPRしていく。



## 国際宣伝用プロモーションビデオ完成

台湾観光局は「自転車旅行年」の国際宣伝用のプロモーションビデオを作成した。ビデオでは、美しい山々や森林、海など、台湾の独特な地形美と多様な風景をサイクリング映像とともに紹介している。PRビデオに登場する主役の1人は日本人タレントの福地裕介さんが務めており、日台の絆も感じさせる。



## 16の推奨サイクリングコース紹介

「自転車旅行年」では5つのカテゴリーに分けて、16の推奨サイクリングコースを紹介する。5つのカテゴリーとは、浜海線(シーサイド)、河畔線(リバーサイド)、山循環線、山岳線、田園線。16の推奨サイクリングコースでは、半日コースや1日コースなど、旅行者が旅行計画を立てやすいように様々なコースを紹介している。



日月潭の美しいサイクリングコース

## 自転車専用バス登場 サイクリングイベント多数

「自転車旅行年」に向けた準備も各方面で進んでいる。台湾の長距離バス会社の国光客運は、新たに「自転車専用バス」を用意。国内外のサイクリング愛好家に利用してもらいたい考えだ。また、台湾は年間を通じてサイクリングイベントが豊富。台湾本島を9日間で一周する「FORMOSA 900」は国内外から参加者が集まる人気イベント。日月潭や澎湖をはじめ各地でイベントが開催される。

## 1月のTEJトラベルフェスタ出展 台湾ブースで自転車乗車体験も

台湾観光局は、2021年1月8日～9日にかけて東京ビッグサイト西展示棟で開催される「TEJトラベルフェスタ」に出展する。「自転車旅行年」をメインコンセプトに、台湾が世界に誇る自転車メーカーのGIANT社の協力を得て、自転車乗車体験などを提供する。DIYコーナーでは花文字体験や占い体験もできる。台湾の魅力を紹介するトークショーや台湾を感じられる映像なども放映される。

## 日本にいながら台湾を満喫! コラボ企画を展開中

台湾観光局では、コロナ禍で台湾旅行に行くことができず、「台湾ロス」に陥っている方々に少しでも台湾の雰囲気を感じてもらい、いつか台湾に行ける日に備えてもらおうと、幅広い分野で様々なコラボレーション企画を実施中。

### 春水堂×台湾観光局 「台湾フェア」展開中

タピオカミルクティブームの火付け役、春水堂では、台湾観光局の特別協賛のもと「台湾フェア」を12月27日まで展開中。店内には「はやく台湾に行けますように」との願いを込めた天燈が飾られ、天燈上げの映像が流れる中、特選メニューなどが楽しめる。



## 日本で台湾気分! オンラインツアーも

台湾観光局はKKdayと共同で、「日本で台湾気分! 日帰りツアー」を東京と横浜で企画した。東京と横浜の媽祖廟などをお詣りした後、台湾ビールを片手に魯肉飯(ルーローファン)や小籠包、焼きビーフンなどを味わうツアー。旅行会社各社は趣向を凝らしたオンラインツアーを企画しており、台湾観光局も各社への協力を実施している。

### 台湾旅行気分楽しむチャーター便 1月16日に成田発着で実施

台湾観光局は、日本航空、ジャルパック、成田国際空港とともに「台湾旅行気分を満喫! 成田発着周遊チャーター」を来年1月16日に実施する。出発フロアでは台湾の春節の雰囲気を演出するほか、機内では台湾をイメージした機内食を用意。参加者全員にプレゼント付の台湾紅包(台湾お年玉)も配られる。



## 台湾のイベントや最新情報

### 台湾ランタンフェスティバル 2021年は新竹市で開催

毎年恒例の「台湾ランタンフェスティバル」は、2021年2月26日から3月7日まで新竹市で開催される。新竹市は、IT関連企業が集中する「新竹サイエンスパーク」があり、ガラスの産地としても有名。メインランタンは108本の竹とガラス素材を用い、新竹市の特色を表現するものとなる。



### 台中メトロ 12月19日開業

台中市初の都市交通システム、台中メトロ(MRT)グリーンラインが12月19日に開業する。全長16.71キロの路線で、市内の北屯総駅と高鉄台中駅を結ぶ全18駅区間を無人自動運転で運行する。

## 一日も早い台日交流再開を期待

### 鄭憶萍東京事務所長メッセージ

2020年は新型コロナウイルスの世界的流行というかつてない危機に全世界が直面しました。台湾観光局では多くの方々にご協力いただきながら、これまで経験のないやり方でPRを行ってきました。台湾にはSARSの経験があり、今回の新型コロナウイルスの防疫対策にはその経験が十分に活かされました。また、台湾と日本の絆は深く、コロナ危機でも防疫に関する情報共有や、台湾から日本にマスクを贈るなど、その関係はより親密になったと感じています。2021年の早い時期に、台湾と日本の観光交流が再開されることを願っています。お互いに長らく訪問できなかっただけに、その時には新しい景色が開けることでしょう。2021年は、東日本大震災から10周年という特別な年でもあります。これまでも観光は多くの苦難を乗り越えてきました。今回の困難も一緒に乗り越えられると信じています。



## JOTC と共催「台湾観光オンラインセミナー開催

## 台湾と日本が協力し困難を乗り越えよう 台湾各地から日本に温かいエール

台湾観光局・台湾観光協会は、JATAアウトバウンド促進協議会(JOTC)とともに「台湾観光オンラインセミナー」を12月15日に開催した。セミナーには、台湾観光局の張錫聰局長、台湾観光協会の葉菊蘭会長からメッセージが寄せられたほか、台湾系航空会社3社、台湾現地旅行社の有志らで発足した台日観光促進会のメンバー、台南市政府、ホテルや観光施設から最新情報が紹介された。また、台湾の「今」を感じてもらおうと、観光交流の早期再開の願いをこめた天燈上げの様子などが現地からライブ配信された。さらに、台北市長や高雄市長をはじめ自治体や観光協会、業界関係者、一般市民などが出演し、日本にエールを送るビデオメッセージが寄せられた。

### 台湾観光局の張錫聰局長 一日も早い再会を期待

台湾観光局の張錫聰局長は、「観光業界、航空業界にとって、2020年は大きな挑戦の年。新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るうなか、生活様式や働き方にも大きな影響を与え、旅行形態にも変化をもたらしている」とした上で、「多くの旅行者はオンラインツアーを実施したり、この期間を利用して社員研修や人材育成を行い、事業存続に向けてみんなが未来への発展を期待



張錫聰局長

している」として、産業界の健闘を讃えた。張局長は、「台湾では新型コロナに対して過去の経験を踏まえて一歩先に準備を整え、より慎重に向き合っている。私たちは防疫ニューノーマルを実施しており、台湾国内の旅行は回復し、台湾内の状況は安定している。国際的にも安心して安全な旅行ができる」と証明している」と自信を示した。そのうえで、「2019年は日台観光交流人口が700万人を超え、互いにとって大事なパートナーであることを証明した。今年は新型コロナウイルスという前代未聞の事態に直面しているが、過去の経験は我々に、きっといつの日か春が訪れると伝えている」として、「この大きな危機をみんなで乗り越えられるように一緒に頑張りましょう。一日でも早く日本の皆様と台湾でお会いできる日を心待ちにしています」と呼びかけた。

### 台湾観光協会の葉菊蘭会長 「この困難も乗り越えられる」

台湾観光協会の葉菊蘭会長は、「新型コロナウイルスが全世界に打撃を与えた。台湾では官民が一体となって安全な旅行環境を作り上げ、多くの人が国内旅行を楽しんで

いる。台湾観光局も旅行業界と共にこの困難に立ち向かうべく、チャーターフライトやオンラインツアーなどで少しでも観光気分を味わってもらいながら、台湾は安心・安全であることを全世界へ伝えている」と説明した。



葉菊蘭会長

葉会長は、「残念ながらまだ観光再開は叶わないが、台湾と日本はともに手を取り合い、これまで何度も困難を乗り越えてきた。今回もきっとこの困難を乗り越えることができる」として、「互いに関心を寄せ、積極的にアイデアを発揮させ、収束後すぐに皆様にお会いできる日を楽しみにしています」と再会を願った。



日本にたくさんの温かいエールが送られた